

最終的に決めた進路を尊重してくれたことに感謝

R・F

茨城県立医療大学 保健・医療学部 放射線技術科学科 進学
小美玉市立 堅倉小学校 卒業

最初は、進度が早く、さらに1つの教科が複数の科目に分かれていることに戸惑い、ついていけないと感じることがあるかもしれません。また小学校とは違い、テストは決まった期間で決まった範囲の確認のため、勉強のペースがつかめず焦ることがあると思います。しかし、茨中・茨高では、中高一貫校の強みを活かして大学受験に向けたカリキュラムが組まれています。茨中・茨高では、高校2年生までに各教科の基礎となる部分の授業を終え、高校3年生で自分の学力に合わせて復習・演習・発展内容の学習を行うことができるため、最後には自分の目標とするところまでたどり着くことが可能です。さらに、授業ではこまめに小テストが実施されるため、自分の苦手分野を把握し、各教科のエキスパートである先生方に理解するまで教えてもらうことで、苦手を1つ1つ徹底的に潰していくことができます。また、英語検定や数学検定などの検定も積極的に行えるため、資格を取るのも難しくはありません。特に英語検定の2次試験である面接などは、先生方と何度も対策を行うことができ、この経験は大学受験に活かすこともできます。他にも、放課後や夏休み、冬休みに実施される課外活動では、自分に必要な教科や難易度の選択が可能であり、必要な知識を養うことができます。その上、茨中・茨高ではグローバル化に伴って、中学1・2年生ではALTの先生の指導の下、英語を使ったプレゼン、中学2年生以降はオンライン英会話を取り入れており、今後必要になる英語のコミュニケーション能力を高めることもできます。大学受験の際には、その大学の過去問が何年分も蓄積されているため、早いうちから対策を行いやすいです。茨中・茨高は、早くから受験を見越して勉強できるため、学習環境としてとても充実していると思います。

6年間の一歩の思い出は部活動です。中学1年生で入った時には中学生の先輩だけではなく高校生も一緒に活動して、戸惑いを隠せませんでした。しかし、部活動にたくさんの先輩がいることで活動のことに対してアドバイスをもらえるだけではなく、生活面や学習面でのアドバイスももらえて、参考にすることができます。特に茨中・茨高では『縦』のつながりが深く、先輩、後輩の仲が良いのが特徴です。また、卒業した後も部活動に来て在校生を支えてくださる方がいて、昔からの話を聞くことで部活動と勉強のバランスのとり方などを考えることも可能になるでしょう。私は引退した後も後輩から話しかけてくれることが多く、受験に対する不安や焦りよりも頑張ろうという気持ちが強くなっていました。部活動の他にも、中学生では体育祭、高校生では文化祭が毎年開催されます。体育祭では、中学3年生を筆頭に各チームが1週間程度の短い期間で1つの物を作り上げるため、全員が団結して協力していく必要があります。さらに、3年生はチームをまとめる必要があるため、大きな責任も伴います。ここで培われる責任感は、大学受験やその後の人生に大きく役立つと思います。文化祭では、企画を出し合って話し合うことで生徒たちの自主性が確保され、一体感が生まれるのではないかなと感じました。加えて、中学3年生時の研修旅行では班ごとに1日の予定を決めて行動する機会があり、大学受験の進路を決めるときにも必ず役に立ちます。

中高一貫校という強みを活かして、大学受験を目標にカリキュラムが組み込まれているため、勉強のペースがつかみやすいです。特に、高校3年生では、それまでに学んだことの総復習やより難しい内容を学習できるところが他の学校に比べて優れていると思います。その他にも、授業では学習しない小論文や面接の指導をしてくれる先生もいて、様々なタイプの受験に対応することができます。また、中学3年生時には、「探究」という授業があり、自分の進路研究をすることができます。自分の進路を早い時期から考えることができ、目標をもって勉強することができます。たとえ進路に迷っても、先生方が自分に合った進路を提案してくれたり、自分の考えている進路から自分に合っているものをお勧めして

くれます。また、進路指導室にはたくさんの赤本がそろっていて、大学の過去問が古いものから最新の物まであり、進路を決めることにも役に立ちます。他にも、勉強で分からないところを質問しに行くと先生方は理解するまで何時間も付き合ってくれます。現在はClassiを取り入れてるため、学校で直接聞けない場合はオンライン上で聞くこともできます。特に受験期では問題を聞いたり、英語の文章を添削してもらうことが多くなるため、大幅に勉強のスピードが上がります。他にも、研修旅行、体育祭、文化祭などで生徒の自主性を尊重しているため、充実した中学・高校生活が送れると思います。

私は、茨高の中でたくさんの友人や先生と出会うことができました。高校3年生の8月まで進路に悩んでいた私に、先生が何度も相談に乗って、最終的に決めた決定を尊重してくれたことでとても助けられました。私は医療の道に進むため、先生のようなことはできませんが、人を見て寄り添うという点では似ている部分もあると思います。今後、先生のように、ただ病気を治していくのではなく「この人がいてくれて良かった」と思えるような人材になりたいと考えています。そのために、大学では必要な知識や技術の他にも、人間性を磨いていこうと思います。そして、お世話になった先生方に、自分で選んだ道を尊重してくれたことを感謝できるように日々邁進していきます。